

WORKS

Empower&Energize

No137
2016/2

名東福祉社会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

後援会プロジェクトの

活動を振り返って

社会福祉法人名東福祉社会後援会
プロジェクトメンバー
加藤佳子

日頃は、後援会の活動にご協力いただきありがとうございます。

後援会は、「名東福祉社会を物心両面で支えていきましょう」という思いで、主に法人内に向けて、役員を中心に各施設が協力し合い、活発に活動してまいりました。

名東福祉社会も、開設当初に比べ名東区・天白区・日進市にまたがり施設・事業所が増えてきました。そこで、より名東福祉社会のことを知っていただくため、一般・学生・企業向けなどいくつかのパターンに分けたパンフレット作りを始めよう、という林後援会長の提案で、後援会プロジェクトチームの構想が動き出しました。

平成25年10月に第一弾のメンバーを募り、併せて林後援会長が、各施設の家族会に出て詳しくお話ししたところ、

20数名の方々が参加の意思表示を下さいました。

平成26年2月には第二弾として、レジデンス日進の交流室や屋上庭園の有効活用、名東福祉社会のキャラクターを考えるなどのプロジェクトチームへの参加を募り、やりたい人、やれる人が集まるチームが、ワイワイがやがやとスタートしました。

後援会は、各施設から役員を選出し構成、運営（総会・研修会・コンサートなど）を行っています。その役員の方々に負担をかけ、活動を広げていくのはやはり大変で、また限界もあります。このようなプロジェクト作りは、大変意義のある活動に発展していくように思われます。

私自身は途中からの参加で、名東福祉社会後援会を知っていただくためのパンフレットとボランティア募集に向けての広報誌「メイト通信」を提案、作成させていただきました。

パンフレットは、名東福祉社会創始者である加藤奈々枝会長の夏椿の絵を表紙に、各施設の紹介、後援会の活動などの内容で、後援会案内として作成し、後援会総会にて配布することができました。

「メイト通信」は、創刊号として施設の紹介、ボランティアの皆さんの活動の紹介などの内容で昨年12月に、また第2号は、長年関わって下さっているボランティアさんに活動について書いていただき、ボランティア募集を呼びかける内容で今年12月に発行しました。次に、名東福祉社会でのボランティア活動に対してお支払いするボランティア通貨「メイト」のパンフレットも提案、作成しました。

こうした昨年から今年にかけての活動で、名東福祉社会を知っていただくた





めのツールは整いました。

そこでプロジェクトでは、「今後、それらを活用するには、どうしたらいいか？」という検討・実践をはじめていきます。

手始めに、以前はまなす家族会が出店していた、毎年開催されている「名東ボランティア展」に、「後援会プロジェクト」として出店しようということになりました。11月22日、藤が丘のリニモス広場で各施設の授産製品(クッ

には？」

を検討し、「……………のは、どうかかな？」
「そうね。やってみよう」というフットワークの軽い活動をしていけたらと思っと思っています。これからの後援会プロジェクトは、後援会の企画部門的に動いていくのではないのでしょうか。

次の企画は、3月23日に、後援会の皆さん・ボランティアの皆さん・名東福祉会がお世話になっている方々などを対象とした、薩摩琵琶・尺八・箏のユニットのコンサートの開催です。これは、レジデンス日進の交流室有効活用の試みの一つとして企画を練っています。

今はまだ、意思表示して下さった方々全員の参加まではいたっていませんが、林後援会長を中心に、参加出来る数名のメンバーで月1回集まり、話し合いながら活動しています。名東福祉会を応援するために、やりたいことをやりたい人が持ち寄って、楽しくやっていけたらと思っています。

より多くの皆さんに関心を持っていただき、プロジェクトに参加をしていただけるのをお待ちしています。

「勉強会(仮)」に

糖分は必要か？

名東区障害者基幹相談支援センター

相談支援専門員 吉田安伸

人間の脳のエネルギー源はブドウ糖です。全身の約20%のカロリー、また1時間あたり5グラムのブドウ糖を消費するそうです。脳は糖分を蓄えられず、不足すると筋肉などにあるグリコーゲンから補われます。しかし量としては少なく、結局は外部から摂取するしかありません。つまり勤務後の疲れ切った状態では頭が働いておらず、会議や議論をするには適していません。

いきなり意味不明ですが、基幹相談支援センターの吉田と申します。

名東福祉会では、平成23年10月、有志の職員により、「安全」「安心」「接遇」の三つの委員会が発足しました。約2年間の活動の後、平成25年10月にいったん解散・再編され、「安全委員会」はヒヤリ・ハット運動の推進とその報告を検証する活動、また「接遇委員会」は法人における権利擁護・虐待防止機能を担う活動をしています。

私自身は旧「接遇委員会」に参加していません。そこでは、普段は会わない職員と様々なやりとりができました。こうした機会が失われるのはもったいない、旧「接遇委」のメンバーで何かできないものか……そこで浮かんだ案が「勉強会（仮）」でした。

職員の皆さんはとても忙しく、研修等を行ったり出かけたりする機会は少ないでしょう。法人内で勉強する機会は、研修に近い役割と言えないでしょうか。

また、同じ法人とはいえ、他事業所の職員が顔を合わせて議論することは少ないです。業務上は様々な協力しながら、他での交流が薄いのも残念な話です。「勉強会（仮）」が事業所間交流のいい機会になるかもしれません。

というわけで、旧「接遇委」のみなさんに提案したところ、快く賛成していただきました。参加者の負担はなるべく軽減したいので、勤務時間内に行ないたい所ですが、さすがに難しく、旧「接遇委」と同じく勤務後に開催することにしました。法人本部に相談して、「勉強会（仮）」への参加は超過勤務扱いにいただきました（ありがたいです！）。法人公認とはなり

ましたが、急に（私が）方針を変えないうちも限らないので、「（仮）」つきです。さて、準備は整い活動開始、なのですが、肝心の「テーマ」がなかなか定まりません。参加者のみなさん、それぞれの事業所、そして法人全体に還元できるものを目指したい、かといっていきなり大風呂敷を広げても結果は目に見えています。

そこで、改めて法人全体の課題や懸念材料ってなんだろう、と考えてみました。すると、「今行なわれている日中活動は、いつまで続けられるだろうか」「何か別の活動を行なう可能性はないだろうか」、と浮かんできました。

名東福祉会では、利用者さんは「働く」ことで社会とつながり、その一員として当たり前前の貢献をできる範囲で行なっていたいただいています。その方針は変わらないでしょうが、「働く」中身については、様々な要因で変化が求められるかもしれません。もちろん、今の活動を否定するわけではありませんし、そもそも法人には簡単に変えられない活動がありません。もし変えたいなら、時間が必要です。

「日中活動を話題にしよう」と「勉強会（仮）」に臨むと、参加者のおひ

とりから似て非なる話題が出てきました。それは、「日中活動にアートを取り入れる」というものでした。芸術的センスが残念な私には、語り口からアーティストティックなそのかたのお話は難しいのですが、日中活動の可能性として「アート」があり、すでにそれを実践している事業所がある、検討してはどうだろうか、という程度（？）は伝わりました。「勉強会（仮）」で「日中活動とアート」について意見交換を行い、「それはそれで、考えていこう」という流れになっています。

こうして方向性は決まったのですが、何から始めるか……手始めに、ビデオ撮影してみることにしました。

……何も怪しいビデオではありません（当たり前）。

普段我々は、自分たちの事業所を客観的に見られません。ビデオで見ると、新しい発見があるかもしれません。

また、自分たちの事業所以外の活動を見る機会も多くありません。何か話し合うにしても、ある程度お互いの事業所を知らないで難しいでしょう。

各事業所で、イベントは記念に撮影しても、日常の活動はそうもいかないでしょう。事業所の記録として（もち

ろん部外秘）残していただくのもなかなか貴重ではないかと思えます。

こうした理由から、普段の活動の様子を撮影し、それを「勉強会（仮）」参加者で観ながら、気づきあう、お互いの事業所を知る、参加者もお互いを知るといって活動をしています。

事業所の提供する日中活動は、利用者みなさんを主人公としてとらえ、ときに活躍を、ときに挫折を支え、いきいきとした生活の一端を担うための重要な要素で、常に見直しが必要です。しかしそれは、内容や生産性の向上だけを意味するのではなく、関わる人たちが利用者のみなさんのために考え、工夫し続けることができるかどうか、にかかっていると思います。そして、それぞれの事業所で行われている工夫を集め、共有し、共に考え、再び日々の活動へと持ち帰ってもらおう、「勉強会（仮）」はそんな場になればいいと思います。機会があれば、またご報告させていただきます。

そんな「勉強会（仮）」ですので、勤務後の疲れ切った頭で臨んでいただくためには、糖分が必要なかもしれない、と思うのでした。

ご寄付ありがとうございます

平成 27 年 5 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日

◆メイトウ・ワークス

川口 功 様 細野 明子 様 尾崎 城二 様 平野 栄子 様
金澤 厚 様 中嶋 保 様

◆天白ワークス

細野 明子 様 青山 武司 様 水嶋 正直 様 江口敏比古 様
長井 淳 様 丹羽 文芳 様 水谷 義孝 様

◆はまなす

梅田 満留 様 牧 公三 様 木村 恵子 様 加藤 公英 様
鴨下 錡 様 中井 昌誉 様 今津 俊典 様 原田不二夫 様
麦島 厚 様 山田 幸造 様 鈴木 勝人 様 杉原 活好 様
佐知 輝敏 様 藤井 保郎 様

◆レジデンス日進・上ノ山ホーム

吉田 征一 様 細野 明子 様 伊藤 時義 様 松原日出男 様
高橋 元彦 様 河津 光子 様 伊藤 和幸 様 石村リキ子 様
牧 公三 様 尾崎 城二 様 松岡 正人 様 田中明日香 様
大村 茂夫 様 小田 雪子 様 谷本 幾史 様 原田不二夫 様

レジデンス日進家族会 様

◆本部

藤本 邦子 様 上ノ山農園支援者の会 様 ふくしまファミリー内科 様

名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

●社会福祉法人 名東福祉会

〒 470-0124 日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●メイトウ・ワークス

(就労継続B型・生活介護)

〒 465-0055 名古屋市名東区勢子坊 2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

●天白ワークス

(就労継続B型・生活介護)

〒 468-0023 名古屋市天白区御前場町 327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

●デイケア はまなす

(生活介護)

〒 465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

●レジデンス日進

(施設入所支援・就労継続B型・生活介護)

〒 470-0124 日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●上ノ山ホーム

(グループホーム)